

私たちの「当たり前」のために

三条市立栄中学校 三年 滝澤 叶逢 たきざわ かのあ

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています」

この文章を目にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。これは、教科書の裏表紙に印刷された、我々に向けてのメッセージです。普段、私たちの身の回りでは、当たり前のように様々なものに税がかけられています。例えば、食べ物や学習用具を購入するときには消費税として、私たちは購入するものの価格以外に税金を支払っています。個人としてみると、支払う金額が高くなってしまうため、どうしてもマイナスなイメージを持つてしまうことが多いですが、それは本当にマイナスなのでしょうか。

教科書の話に戻ると、中学校三年間で使う全教科の平均教科書費は、文部科学省より、一人あたり約一万五千円のおおです。そう考えると、社会のみんなが少しずつ協力し合っているのおかげで私たちは約一万五千円分の教科書を無償で受け取っているのです。社会の一員として、誰かの協力によって私たちは税の恩恵を受けています。その恩恵が、税金が私たちのこれからの未来や可能性を広げてくれていると思います。税金があることによって「当たり前」の生活を送れているのです。義務教育において補助金を受けること、緊急の際に救急車を呼び、病院へ運んでもらう

こと、設備の整った公共施設を利用できることなど、これらは税金のおかげでできることなのです。

現時点で子どもの私ができることは少ないですが、税金のおかげで得た教科書を大切に使ったり、何気なく使っている公共施設などに感謝の気持ちを持って利用していくことはできるはずですよ。身近な「当たり前」を感じ、自分にできることをしっかりとやっていきたいです。

また、最近「増税」という言葉をよく耳にします。言葉のとおり「税を増やす」とそれに比例して個人の負担も増えます。一方、国や自治体は収入が増え、公共施設が整備されたり、社会保障の充実に役立てることが出来ます。こうした利益もある中で批判の声が多いのは、地域の充実や安定に目を向けていないためではないでしょうか。もし、税金がなかったら、きっと私たちは地域の様々なことに不満をもって生活することになるでしょう。

「当たり前」を維持していくには、税金は私たちにとって必要不可欠であると思います。一人ひとりが意識していなくとも、知らぬ間に助け合える社会をつくっている税金に感謝の気持ちを持っていきたいです。